

平成 29 年度

事業計画

平成 29 年

公益財団法人 五島美術館

◆事業計画書

I. 五島美術館(公益目的事業①)

1. 展示事業

1-1. 展覧会名とその概要

(1) [館蔵]春の優品展—歌仙と歌枕—

平成 29 年 4 月 1 日[土]—5 月 7 日[日]

館蔵品の中から、歌仙(すぐれた歌人)の肖像画(歌仙絵)、平安・鎌倉時代の古筆、歌枕(和歌の題材となった名所)を描いた絵画や工芸品など名品約 60 点を展示(会期中一部展示替あり)。和歌の文化におけるイメージの形成と創作の源泉をたどる。

特別展示予定=国宝「源氏物語絵巻」4 月 29 日[土・祝]—5 月 7 日[日]

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日=毎月曜日

(2) [館蔵]近代の日本画展

平成 29 年 5 月 13 日[土]—6 月 18 日[日]

館蔵品の近代日本画コレクションから、「花鳥画」を中心に、橋本雅邦、川端玉章、横山大観、川合玉堂、安田靉彦、前田青邨、川端龍子、金島桂華など、明治から昭和にかけての近代日本を代表する画家の作品約 40 点を選び展覧する。館蔵品の近代書跡と宇野雪村コレクションの文房具も同時公開。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日=毎月曜日

(3) [館蔵]夏の優品展—料紙のよそおい—

平成 29 年 6 月 24 日[土]—7 月 30 日[日]

館蔵品の中から、「染める」「漉きこむ」「摺る」「撒く」「描く」など料紙装飾に関わるキーワードを元に、写経や古筆などの作品約 60 点を選び展示(会期中一部展示替あり)。書を魅せるため、また信仰の証しとして、様々な技術が施された紙の多彩なよそおいを展覧する。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日=毎月曜日(7 月 17 日は開館)、7 月 18 日[火]

記念実演会=平成 29 年 7 月 16 日[日]～17 日[月・祝]「越前紙漉き職人 紙漉き実演」

館内整備のため休館=平成 29 年 7 月 31 日[月]—8 月 25 日[金]

(4) [館蔵]秋の優品展—大般若経と禅宗—

平成 29 年 8 月 26 日[土]—10 月 15 日[日]

館蔵品の中から、高僧を描いた絵画、古写経(大般若経)、禅僧の書画(墨跡・水墨画)など約 60 点を選び展示(会期中一部展示替あり)。一切の存在はすべて空であると説く、諸経典

を集大成した最大の仏典「大般若経」を中心に禅宗の美の世界を展観する。館蔵品の日本陶磁も同時公開。

特別展示予定＝国宝「紫式部日記絵巻」10月7日[土]—10月15日[日]

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(9月18日・10月9日は開館)、9月19日[火]、10月10日[火]

記念講演会＝平成 29 年 9 月 5 日[火] 円覚寺管長講話

平成 29 年 10 月 5 日[木] 法持寺住職講話

(5) [特別展]光彩の巧み—^{るり}瑠璃・^{はり}玻璃・^{しっぽう}七宝—

平成 29 年 10 月 21 日[土]—12 月 3 日[日]

宝物に嵌めこまれた貴石やガラス、そして色鮮やかな釉薬を溶着した七宝の技法は、半透明の奥深い耀きとともに人々の心を魅了してきた。その靈性を帯びた光彩は豊かな精神文化を形成し、古代の副葬品から机上を彩る文房具まで多様な宝物を生み出している。日本・東洋で育まれた七宝かざりの軌跡を、室内調度や茶道具ほか約 60 点の名品でたどる(会期中一部展示替あり)。

一般 1200 円／高・大学生 900 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

レセプション＝平成 29 年 10 月 20 日[金]

記念講演会＝日程未定、計 3 回を予定

(6) [館蔵]茶道具取合せ展

平成 29 年 12 月 9 日[土]—平成 30 年 2 月 18 日[日]

展示室に当館茶室「古経楼」「松寿庵」「富士見亭」の床の間原寸模型をしつらえ、館蔵品の茶道具コレクションから約 70 点を選び展示(会期中一部展示替あり)。懐石道具・炭道具のほか、江戸時代後期の大名茶人松平不昧(1751～1818)所持のいわゆる雲州松平家伝来の名物茶道具を中心に道具の取合せを展観する。特集展示として朝鮮半島の陶芸・高麗茶碗も同時公開。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(1月8日・2月12日は開館)、12月25日[月]—1月4日[木]、1月9日[火]、2月13日[火]

(7) [館蔵]中国の陶芸展

平成 30 年 2 月 24 日[土]—3 月 25 日[日]

館蔵品の中国陶磁器コレクション約 60 点を展観。戦国時代の計量道具から、唐三彩の壺、宋時代の砧青磁、明時代の青花・五彩まで、時代順に展示し、2000 年にわたる中国のやきものの歴史を展望する。館蔵品の古鏡コレクションも同時公開。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

1-2. 入館者数(目標)

平成 29 年度の入館者数は前年(実績見込)を上回る 6 万 3 千人の獲得を目標としていくこととする。

このうち館蔵展 6 企画については企画面の充実に加え、積極的に告知面の強化を図ることにより前年に対し 5%の集客増を目指していく。

また特別展については平成 26 年度に開催した工芸(漆芸)の「存星展」を超える入館者数獲得を目標とする。

(単位:入館者=人、開館日=日)

	有料	無料	計	入園者	合計	開館日	一日平均
(1) 館蔵「春の優品展－歌仙と歌枕－」<平成 29 年 4 月 1 日－5 月 7 日>	7,896	640	8,536	384	8,920	32	279
(2) 館蔵「近代の日本画展」<平成 29 年 5 月 13 日－6 月 18 日>	8,702	384	9,086	256	9,342	32	292
(3) 館蔵「夏の優品展－料紙のよそおい－」<平成 29 年 6 月 24 日－7 月 30 日>	3,830	544	4,374	128	4,502	32	141
(4) 館蔵「秋の優品展－大般若経と禅宗－」<平成 29 年 8 月 26 日－10 月 15 日>	6,976	528	7,504	176	7,680	44	175
(5) 特別展「光彩の巧み－瑠璃・玻璃・七宝－」<平成 29 年 10 月 21 日－12 月 3 日>	12,200	2,000	14,200	798	14,998	38	395
(6) 館蔵「茶道具取合せ展」<平成 29 年 12 月 9 日－平成 30 年 2 月 18 日>	12,020	848	12,868	159	13,027	53	246
(7) 館蔵「中国の陶芸展」<平成 30 年 2 月 24 日－3 月 25 日>	4,150	286	4,436	156	4,592	26	177
【合計】	55,774	5,230	61,004	2,057	63,061	257	245

2. 調査・研究・保存事業

(1) 美術品の調査・研究

美術品の調査・研究を継続し、新規収蔵品等を中心に調査を進める。より正確なデータベースを構築するため、デジタルアーカイブへの取組みを始める。

(2) 蔵書・写真の整理

蔵書および写真の整理と登録を進める。

(3) 美術品の補修

館蔵品のうちから、特に傷みの著しいもの、出陳頻度の高いものを優先し、その修理を行う。本年度は「高野切古今和歌集(第二種)」を修理予定。

(4) 美術品の保存

今後の保存対策のため、収蔵庫および展示室の環境測定を実施し、種々データを集める。それに伴って収納棚の保存環境および利用時における安全性を見直し、一部改修して、より効率的な収納ができる保存環境を目指す。また作品を保護するための包裂や箱、刀剣の鞘などを順次修理し、保存・管理の安全性を向上させる。なお今期は、平成 20 年8月以来となる収蔵庫の燻蒸を実施する。

(5) 会議・学会・研修会への参加

美術品にかかわる各種会議・学会・研修会へ参加し、研究成果を発表する。

- ・ 全国博物館大会、全国美術館会議、私立美術館会議、美術史学会、東洋陶磁学会、漆工史学会、茶の湯文化学会、書学書道史学会、文化財保存修復学会(大会出席)。
- ・ 各種研究会および研修会参加(染織文化史研究会、茶書研究会、東京文化財研究所企画展示セミナー、日本書道史研究会、日本博物館協会研究会、墨蹟研究会、画賛研究会)。
- ・ 科学研究費助成事業への参加。

(6) 博物館界・学会などへの協力

当館の加入する日本博物館協会、東京都博物館協議会、東洋陶磁学会、漆工史学会、全国美術館会議などの活動に積極的に協力するとともに、各種委員会や美術普及行事、学術文化の国際交流に関して専門学芸員の派遣など、当館の役割を果たしていく。また、受入れ態勢の許す限り博物館学および同実習教育を実施する。

(7) ホームページ等の運営

五島美術館の公式ホームページ(URL=<http://www.gotoh-museum.or.jp/>)を充実し、インターネット上での美術館や収蔵品の紹介、展覧会の広報活動等を展開するために、コンテンツの充実を目指す。また、フェイスブック、ツイッターなど SNS の有効活用を促進する。

(8) 研究紀要の編纂

研究活動の成果を紀要としてまとめる。執筆者は学芸部を中心とし、資料紹介や調査報告を含めた専門性の高い論考に、美術館・文庫の活動報告を合わせた体裁とする。

(9) 日本伝統工芸展への協賛

公益財団法人日本工芸会他の主催する同展への協賛を通じ、日本における伝統工芸の健全な発展に寄与する。

3. 普及事業

(1) 美術品の貸出

他所の美術館・博物館への館蔵品の貸出要望に対しては、趣旨・開催期間などを十分検討し、保存上の留意をしつつ、社会教育の発展・普及の観点から貸出を許可し、出品する。

(2) 友の会

茶の友・美の友・法人友の会などの普及、発展をめざし、美術講座・茶会・展示解説を中心に会員に対するサービスの向上・改善に努める。

(3) ギャラリートーク(展示解説)―入館者対象(年間 29 回開催)

・[館蔵]春の優品展―歌仙と歌枕―

-----平成 29 年 4 月 6 日、21 日、29 日、5 月 2 日、7 日の 5 回

・[館蔵]近代の日本画展

-----平成 29 年 5 月 18 日、6 月 1 日、15 日の 3 回

・[館蔵]夏の優品展―料紙のよそおい―

-----平成 29 年 6 月 28 日、30 日、7 月 13 日、20 日の 4 回

・[館蔵]秋の優品展―大般若経と禅宗―

-----平成 29 年 8 月 31 日、9 月 14 日、15 日、29 日、10 月 11 日、13 日、15 日の 7 回

・[特別展]光彩の巧み―瑠璃・玻璃・七宝―

-----平成 29 年 10 月 27 日、11 月 10 日の 2 回

・[館蔵]茶道具取合せ展

---平成 29 年 12 月 15 日、21 日、平成 30 年 1 月 12 日、19 日、31 日、2 月 2 日の 6 回

・[館蔵]中国の陶芸展

-----平成 30 年 2 月 28 日、3 月 22 日の 2 回
* 上記展覧会の展示品を学芸部が解説する。

(4) 茶会(当館主催)―茶の友会会員対象

・第 1 回＝平成 29 年 11 月 16 日～19 日の 4 日間

・第 2 回＝平成 30 年 3 月 15 日～18 日の 4 日間

* 上記茶会に使用する美術品について学芸部が解説する。

(5) 陶芸講座(当館主催)―美の友会会員対象

・第 1 回＝平成 29 年 5 月 27 日・28 日 予定 定員(各日 35 名)

・第 2 回＝平成 29 年 9 月 23 日・24 日 予定 定員(各日 35 名)

・第 3 回＝平成 30 年 1 月 27 日・28 日 予定 定員(各日 35 名)

(6) 美の友会月例美術講座(当館主催)―美の友会会員対象

美の友会会員を対象に下記のシリーズを、連続講座(各月 1～3 回)として(年間 29 回)開催す

る。各回ともシリーズのテーマに即した主題を掲げ、当館の収蔵品やスライド映写をまじえてわかりやすい講座を行なう。

◇書跡鑑賞シリーズⅪ「12世紀の古筆2」

わが国特有の仮名文字が整理され、完成したと考えられるのは、西暦900年頃、10世紀のはじめの事である。その後に仮名文字の美しさが追及され、11世紀の中頃には典型的な字形が完成している。さらに、仮名文字の表現は多様性が増し、11世紀の後半から12世紀にかけて個性的な造形も現れる。今回のシリーズは、前年に引き続き12世紀の作品として知られる古筆を撰んで、その概略を述べ、スライドで鑑賞しながら、書写年代の探求と変体仮名を含む仮名文字の読みの練習もしてみる(8・11月は休講)。 (担当=五島美術館学芸部 名児耶 明)

第1回	平成29年4月	1日[土]	「卷子本古今集」
第2回	5月	6日[土]	「砂子切」
第3回	6月	3日[土]	「堺色紙」
第4回	7月	1日[土]	「安宅切」
第5回	9月	2日[土]	「久松切」
第6回	10月	7日[土]	「多賀切」
第7回	12月	2日[土]	「今城切」
第8回	平成30年1月	6日[土]	「仁和寺切」
第9回	2月	3日[土]	「五首切」
第10回	3月	3日[土]	「昭和切」

◇工芸鑑賞シリーズⅡ「工芸史拾い歩き—瑠璃・玻璃・七宝編」

用途に応じた機能と使い勝手を持ち、多種多様な技法と卓抜な発想のもとで、あらゆる優れた工芸品は生み出されてきた。本講座は、人々の生活をあまねく満たす美的な空想と工芸の限りない魅力のうち、おいしいところを摘み食いする連続講座である。今期は半透明の奥深い耀きをまとう七宝を中心に、貴石やガラスをめぐる象嵌と溶着の装飾文化に焦点を当てる(8月は休講)。 (担当=五島美術館学芸部 福島 修)

第1回	平成29年4月	8日[土]	「貴石信仰と象嵌のわざ」
第2回	5月	13日[土]	「溶着される耀き」
第3回	6月	10日[土]	「東洋のガラスと景泰藍」
第4回	7月	8日[土]	「七宝展開の空白」
第5回	9月	9日[土]	「調度と装身具」

◇染織鑑賞シリーズⅪ「茶会記と染織」

桃山・江戸時代の茶人たちは初めて拝見する掛物や茶入を拝見するとき、その表具や仕覆の織物までも書き留めていた。今回は『松屋会記』『天王寺屋会記』『宗湛日記』を取り上げ、茶道具を飾った染織品を手掛かりに、当時の鑑賞のあり方やもてなしの料理まで、茶会記を楽しみながら読む講座である。鑑賞の基礎知識も含め、伝来する関連資料などスライドを交えて解説する予定である(8・10・11月は休講)。 (担当=五島美術館学芸部 佐藤留実)

- 第1回 平成29年4月15日[土] 「松屋会記①」
- 第2回 5月20日[土] 「松屋会記②」
- 第3回 6月17日[土] 「松屋会記③」
- 第4回 7月15日[土] 「天王寺屋会記①」
- 第5回 9月16日[土] 「天王寺屋会記②」
- 第6回 12月16日[土] 「天王寺屋会記③」
- 第7回 平成30年1月20日[土] 「宗湛日記①」
- 第8回 2月17日[土] 「宗湛日記②」
- 第9回 3月24日[土] 「宗湛日記③」

◇陶磁鑑賞シリーズVI「茶匠の好み道具」

茶の湯道具には、それぞれの時代により流行があった。それは、各時代を代表する茶人・茶匠の好みを反映したものであったと考えられている。この講座では、室町・桃山・江戸の各時代に活躍した茶匠が好んだといわれるさまざまな茶の湯道具のうち、主に茶碗などの陶磁器をとりあげ、画像で紹介し、産地・制作年代・技法、茶道具にまつわるエピソードや鑑賞のポイントを解説する(11月は休講)。

〈担当＝五島美術館学芸部 砂澤祐子〉

- 第1回 平成29年10月14日[土] 「珠光・武野紹鷗」
- 第2回 12月9日[土] 「千利休」
- 第3回 平成30年1月13日[土] 「古田織部」
- 第4回 2月10日[土] 「小堀遠州」
- 第5回 3月10日[土] 「松平不昧」

(7) 青少年向け普及講座

・小学生や中学生を対象に、美術や日本文化への理解を深めるための各種普及講座を開設する。現在予定している講座としては以下の通り。

- ① 「こども美術講座 和歌とかな文字」 平成29年4月16日[日]
- ② 「こども美術講座 王朝絵巻の世界」 5月5日[金・祝]
- ③ 「こども美術講座 日本画を知ろう」 6月4日[日]
- ④ 「こども美術講座 オリジナル料紙を作ってみよう」 7月23日[日]
- ⑤ 「こども美術講座 かなを書くための紙とは」 7月30日[日]
- ⑥ 「こども美術講座 お坊さんの書」 8月27日[日]
- ⑦ 「こども美術講座 王朝絵巻の世界」 10月9日[月・祝]
- ⑧ 「こども美術講座 かなの誕生」 11月23日[木・祝]
- ⑨ 小・中学校等へ出張講義に赴く予定(日程未定)

(8) ミュージアム・コンサート

音楽を通じ、地域住民はじめ来館者に対して美術館の楽しみ方の一面を提示する。

平成29年7月6日(木) クァルテット・リゾナンツァによる弦楽四重奏演奏会

平成29年9月21日(木) 長唄演奏会一和のこころを聴く

(9) 茶室公開

公開日＝「館蔵 近代の日本画展」期間中(平成 29 年 5 月 19 日[金])

「館蔵 茶道具取合せ展」期間中(平成 30 年 2 月 1 日[木])

入館者を対象に、通常非公開の茶室「古経楼」「富士見亭」の解説及び呈茶を学芸部が行う。

(10) 東急グループの社会貢献活動への協力

- ・「東急オトナプログラム」に参加予定
- ・「とうきゅうキッズプログラム」に参加予定

(11) 展示案内、ホームページ等の国際化

外国人観光客の増加に伴い、館内の設備や展示案内、ホームページ等について表記の国際化を推進していく。

Ⅱ. 大東急記念文庫(公益目的事業②)

1. 文庫事業

(1) 図書保存

- ・文庫収蔵庫内の和古書と参考書誌、図書資料等との分離収納作業を継続する。
- ・本年度も引き続き、所蔵資料の保存状態を調査し、修理・補修リストを作成する。
- ・収蔵庫内の防虫、防塵、防湿、防災には万全を期す。新収資料の防虫には特に留意する。
- ・不慮の災害に備え、資料の写真撮影などの複本作りを継続的に進める。

(2) 図書修理

破損の恐れのある保存状態の悪い資料を、閲覧の頻度等を考慮しつつ修理する。

(3) 図書収集

研究・閲覧に資する参考資料(辞典、叢書、全集、記録類等)を購入する。

(4) 図書調査

元政庵瑞光寺等、他機関収蔵の古典籍資料調査を行なう。

(5) 図書閲覧

大学生以上の学術研究者を対象に閲覧業務を行なう。

(6) 研究発表

図書調査・研究活動等に基づき、書誌学、文化史学、国文学、美術史学、保存科学等の研究の成果を機関誌「かがみ」その他、学術専門誌に発表する。

(7) 出版物の編集・刊行・頒布・委託出版

・継続刊行中である「大東急記念文庫善本叢刊中古・中世篇」の第28回配本別巻「集古筆翰」を刊行する。

・機関誌「かがみ」第48号を編集刊行する。

・既刊の講演録、マイクロフィルム等を頒布する。

(8) 普及

・各種団体(大学・研究会・図書館等)の要請による研究会、展示説明会等があれば、これに応じる。

・文庫刊行の出版物等を友好機関に寄贈する。また、友好機関、個人から受贈した出版物等は、閲覧研究に供するとともに、整理して保存する。

・各種団体等・個人から多数の撮影、出版、放映、翻印等の許可申請があるが、厳しく検討して許可する。

(9) 展示

五島美術館の展示に協力するとともに、他館からの出陳の要請は検討の上、貸し出す。

(10) 国等各種公共機関・団体への協力と職員の派遣

国や各種公共団体の研究会等への参加、助言等、文庫の事業運営上必要と認められる対外活動を行なう。

以 上

収支予算書

平成29年 4月 1日から平成30年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[11,530,000]	[11,363,000]	[167,000]
特定資産運用益	[10,000]	[10,000]	[0]
公益事業収益	[134,131,000]	[135,093,000]	[△ 962,000]
受取寄付金	[200,719,000]	[193,708,000]	[7,011,000]
雑収	[70,000]	[70,000]	[0]
経常収益計	346,460,000	340,244,000	6,216,000
(2) 経常費用			
事業費	[322,327,000]	[316,218,000]	[6,109,000]
管理費	[24,850,000]	[26,311,000]	[△ 1,461,000]
経常費用計	347,177,000	342,529,000	4,648,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 717,000	△ 2,285,000	1,568,000
損益評価等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 717,000	△ 2,285,000	1,568,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
指定正味財産へ振替	[15,000,000]	[0]	[15,000,000]
経常外費用計	15,000,000	0	15,000,000
当期経常外増減額	△ 15,000,000	0	△ 15,000,000
当期一般正味財産増減額	△ 15,717,000	△ 2,285,000	△ 13,432,000
一般正味財産期首残高	1,049,748,942	1,052,033,942	△ 2,285,000
一般正味財産期末残高	1,034,031,942	1,049,748,942	△ 15,717,000
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	[0]	[39,000,000]	[△ 39,000,000]
一般正味財産からの振替額	[15,000,000]	[0]	[15,000,000]
一般正味財産への振替額	[△ 68,719,000]	[△ 67,708,000]	[△ 1,011,000]
当期指定正味財産増減額	△ 53,719,000	△ 28,708,000	△ 25,011,000
指定正味財産期首残高	3,899,554,619	3,928,262,619	△ 28,708,000
指定正味財産期末残高	3,845,835,619	3,899,554,619	△ 53,719,000
III 正味財産期末残高	4,879,867,561	4,949,303,561	△ 69,436,000